

看護学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

看護学に必要な情報管理の原則を理解し、基礎的な情報処理ができる。

【到達度】

- コンピュータやネットワーク、アプリケーションソフトを適切に利用できる。
- 情報管理の原則（情報公開、プライバシー保護、取り扱い倫理、セキュリティ）を説明できる。
- 医療で扱う診療及び看護記録の種類・特徴・要件を説明できる。
- 電子化された診療情報の作成過程と管理の概要を情報システムの観点から説明できる。

【教育内容・教育方法】

- は、基礎分野で学修した基礎的なコンピュータリテラシーのスキルを用いる。
- と は、看護で取り扱う情報及び情報管理について説明し、診療記録及び看護記録とその法的意味を講義・演習する。
- は、看護情報を検索・収集する過程におけるアナログ情報とデジタル情報及びその管理について、講義で理解させる。

【到達度確認の測定手段】

- は、口頭試問、レポートで確認する。
- と は、小テスト、演習などで確認する。特に記録の法的な解釈に関する正しい取り扱いを理解させる。
- は、個人或いはグループ発表にもとづいて、学生同士あるいはグループ担当教員が評価する。引用など知的所有権のルールに基づくプレゼンテーションで評価する。

【到達目標 2】

ICTを活用して、看護に必要な情報を収集・解析できる。

【到達度】

- 看護上の問題点を解決するために必要な医療・看護の情報源を選択し、具体的な情報を検索・収集し、整理できる。
- 看護事例の取り扱いに関する個人情報保護、守秘義務の考え方に照らして正しい情報収集と整理ができたか判断できる。
- 研究論文のクリティークやEBMの重要性に照らして問題を分析的・批判的に捉えられることができる。

【教育内容・教育方法】

- は、看護上の問題及びその問題を解決するために必要な情報源及び情報について説明し、情報の検索、収集を演習する。更に、看護上の問題をもつ事例を提示し、その問題を解決するために必要な情報の検索・収集と整理を行わせる。
- は、学生個々に個人情報保護に留意しながら整理し、グループ討論を行い、その結果を発表する。
- は、適切な看護研究データに基づいて、看護の質的・量的な視点から評価させる。また、図書館医療情報検索システムのOPAC、MEDLINE等を通じて検索させ、批判的吟味を行わせる。

【到達度確認の測定手段】

- は、学生が実際に検索・収集した情報が目的を達成するのに必要な情報であったか、不要な情報や誤った情報、不適切な情報を収集していないかを確認する。
- と は、グループ討論の結果発表は学生同士あるいはグループ担当教員が評価する。特に「看護師の倫理として個人情報や守秘義務、知的所有権についてどう考えたかについて意見交換

する。科目責任者は発表及び意見交換への参加度を評価する。

【到達目標 3】

ICTなどにより、看護に必要な情報を適正・適切に活用できる。

【到達度】

収集した情報を、ソフトウェアを用いて目的に応じた形に加工できる。

対象の情報提供ニーズ充足のための資料を作成できる。

ICTを活用して作成した情報を提供及び交流できる。

【教育内容・教育方法】

は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトなどを用いて情報を加工させる。

は、対象に向けた情報提供資料を作成する場合に配慮すべき点を考えさせ、資料を作成させる。

は、情報を提供するためのICTの活用とその結果についてプレゼンテーションさせ、その内容について議論させる。

【到達度確認の測定手段】

は、実習上の課題を与え、ソフトウェアを用いて適切な形に加工できたか確認する。

は、作成した図表が対象向けの資料として、適切な配置や配慮がなされているか、作成した資料の提出を求め、解りやすい用語や意味のあるレイアウトなど配慮がなされているかを確認する。

は、プレゼンテーション及び交流を指導者及び担当教員が同席して評価する。特に活用したICTが適切に使われているかを評価する。